

能美市×デジタル庁 ロジックツリー作成 実証

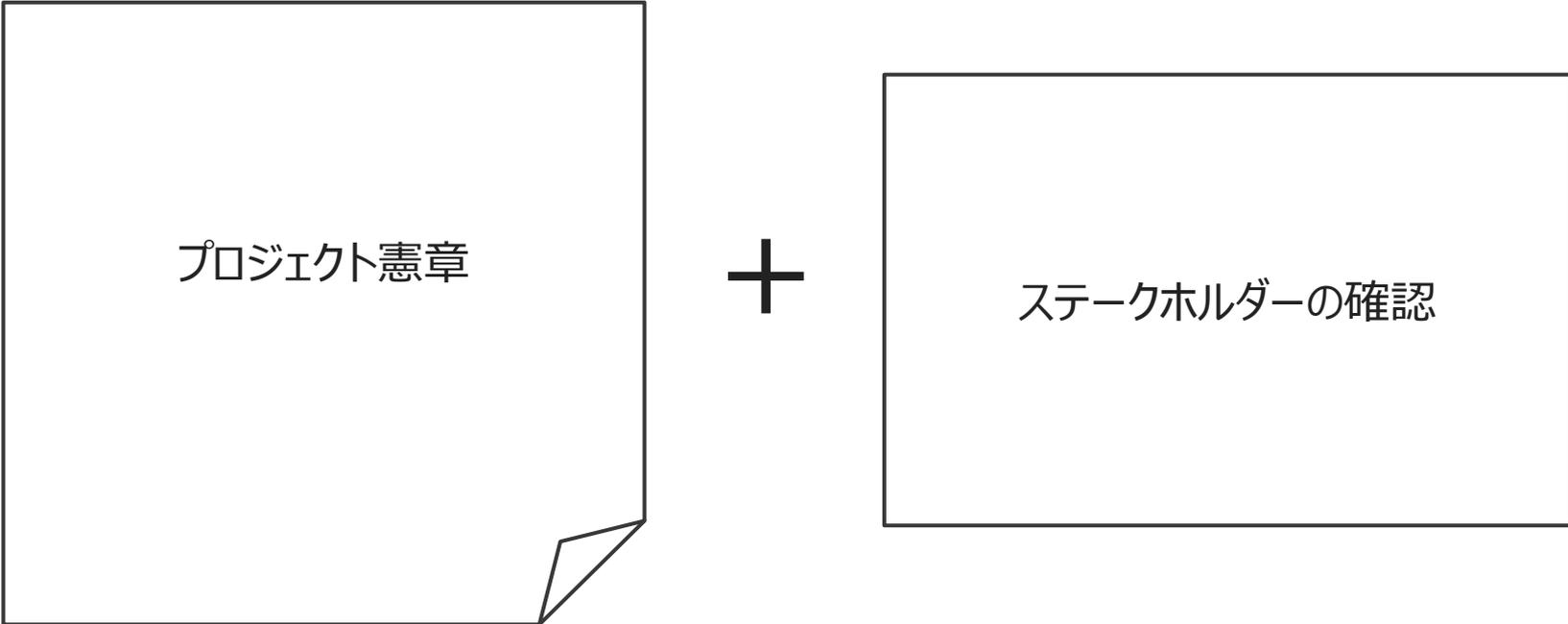
ワークショップ^o 1

進め方のご相談

会議・WSとその間の自治体での検討

名称	検討内容
キックオフ会議	[進め方] 全体の進め方を相談、次回までの検討を説明
↓ 自治体での検討①	対象とする施策を列挙、各施策のポイントを記述
ワークショップ1	[5 → 1] 対象施策を起点に全体のロジックツリーを構成
↓ 自治体での検討②	追加候補となる項目や施策を挙げる
ワークショップ2	[1 → 5] 政策領域・施策を拡張し、構造を強化
ワークショップ3	[仕上げ] 全体の確認、文言・構造の調整
↓ 自治体での検討③	各項目について、成果を確認するための指標を特定
ワークショップ4	[指標] 指標の確認、全体振り返り

プロジェクト体制の確認



プロジェクト憲章

+

ステークホルダーの確認

ロジックツリーとは

ロジックツリーの役割

都市のwell-being実現

総合計画

基本計画

デジ田交付金
事業

推進してきた
まちづくりの
戦略を明示

行政

地方自治体

まち

市民の体験

戦略的な実行と
成果の評価

市民・事業者の理解と
参画の呼びかけ

ロジックツリー

行政のストーリーと市民のストーリーとをつなぐ

今回デジ庁と作成するロジックツリーは、自治体で作成している総合計画・基本計画やデジ田交付金事業のロジック（上位目的と施策との対応関係）を、より高い解像度で明示したものとなります。

これを用いて、地方行政の皆さんは、

- 1) 様々な施策を、**成果を評価しながら戦略的に実行**できる
 - 2) 市民や事業者**に理解と参画を得ながら施策を展開**しやすくなる
- と考えています。

指標を用いて成果を確認

ロジックツリー

行政のストーリーと市民のストーリーをつなぐ

対象分野における
well-being実現
【第1水準】

戦略的な政策
の遂行
【第2水準】

まちの仕組みや
状態の変化
【第3水準】

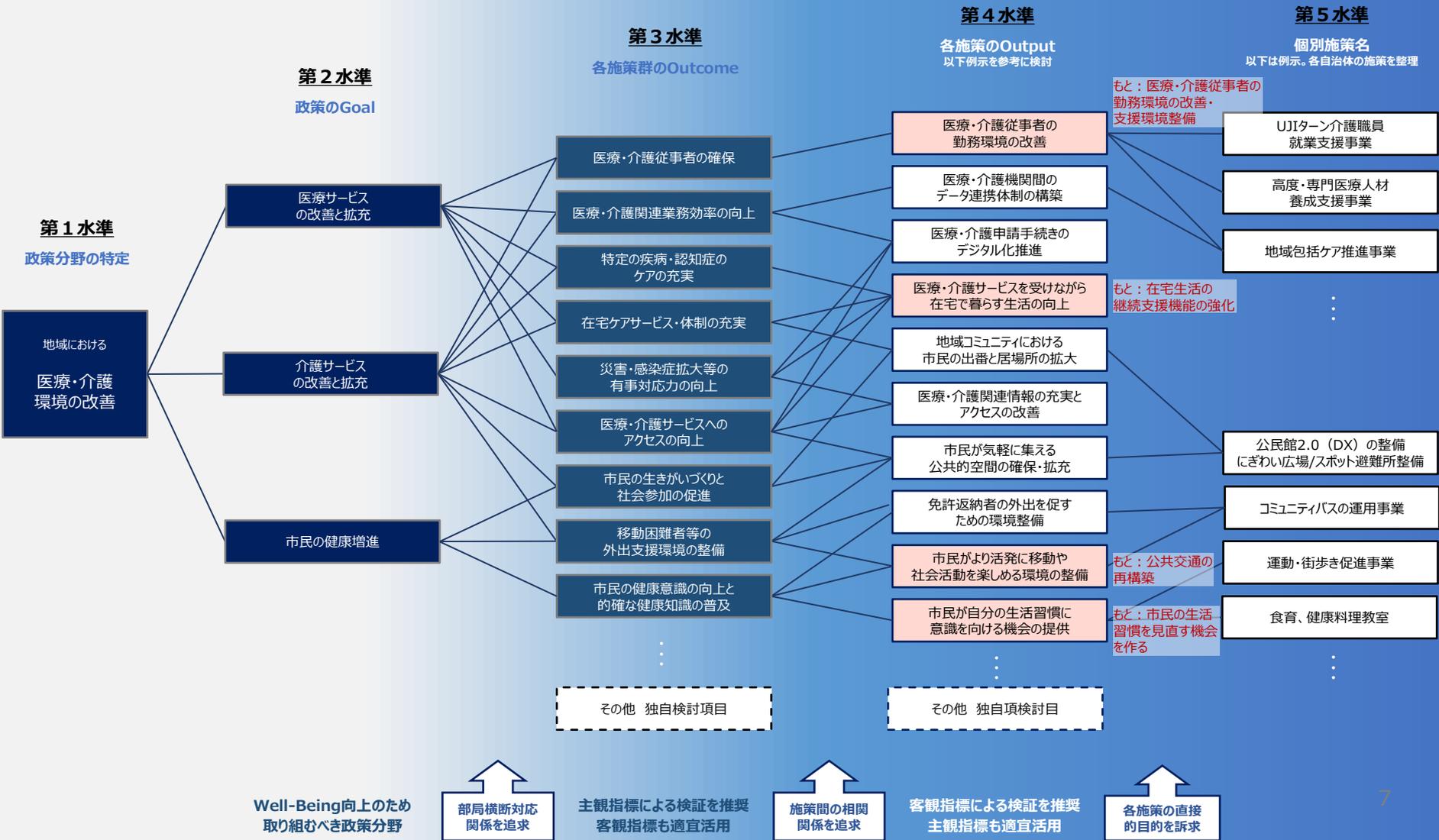
市民の体験
の変化
【第4水準】

公共サービスの
提供
【第5水準】



狙った成果がスムーズに示されていることを
指標としたデータによって確認する
(必要に応じて施策を修正)

リファレンスロジックツリー 【医療・介護環境の改善編】



リファレンスロジックツリーの狙い

1. 経緯

これまで、デジタル庁では、デジタル田園都市国家構想実現交付金Type2/3の交付団体に対して、Well-Being指標に基づく地域の課題抽出作業の実施を強く推奨し、これまでに70以上の自治体で、実際に取り組んでいただきました。この作業は、広く市民を巻き込み、地域の強みや課題となっている取組分野を明らかにする上で一定の効果を発揮しました。

しかし、その分野の取組の強化に向け、どの施策が効くのか、新たにどんな施策が必要なのか、具体的施策レベルで分析を行うには、まだ十分ではありません。

このため、令和6年度のデジ田交付金事業では、これまでお願いしてきたWell-Being指標に基づく分析に加え、強化すべき政策分野に関するロジックツリーの試作を推奨することとし、そのための作業のひな形を作成・公開することにしました。

2. 取組の内容

ロジックツリー作成の取組初年度となる本年度は、多くの自治体で課題となる**3つの政策分野を取り上げ、リファレンスロジックツリーを作成**しました。同ツリーは、各分野において標準的に必要となるアウトカムをトップダウンで整理し、それに対して各自治体が行っている施策をボトムアップ型で貼り合わせてみることによって、政策分野ごとの施策の十全性を評価しようとするものです。具体的には、以下三つの課題の解決を念頭に置いて作成いたしました。

- ① Well-Being指標に基づく課題感と具体的な施策の間の因果関係を整理する。これによりWell-Being改善に資する具体的施策を特定し、WB改善に向け必要な施策の強化につなげる。
- ② 従来の政策評価の中で、施策毎に設定されきたアウトカムについて、部局をまたいだ関係施策の因果関係を明らかにし、施策間の相乗効果やトータルなインパクトを明らかにする
- ③ 政策分野レベルでの抽象的な課題感を、施策レベルの具体的な取組の議論に結びつけることによって、施策立案に対する市民の当事者感、自分事化感の定着・加速を図る。

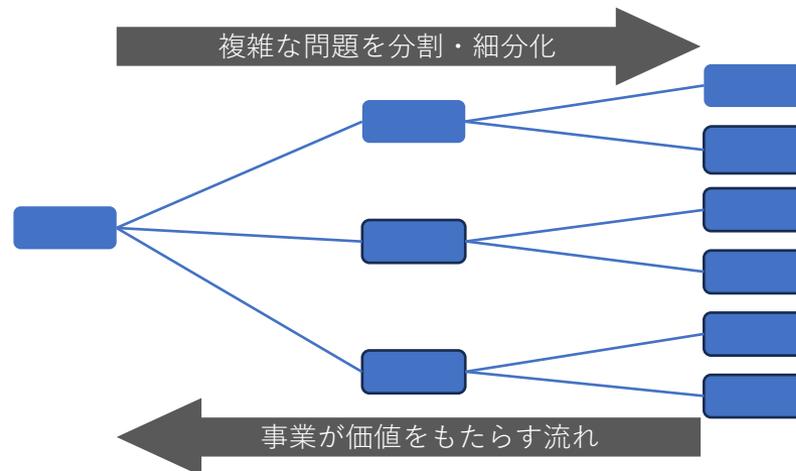
ロジックツリーとは <補足資料>

ロジックツリーとは、問題解決や意思決定を行う際、その思考過程を構造的に見える化する手法です。複雑な問題をより扱いやすいサイズに分割・細分化し、それぞれに対する解決策や行動計画を段階的に検討していく作業に、非常に有用な思考ツールです。

ロジックツリーでは、各事業が価値をもたらす流れ（右から左への「ある事業を行うことによって、このような目的を満たす／このような成果をもたらすことができる」というストーリー）が図式的に表現されるため、各施策に関与する市民や事業者などが、最終的な施策のゴールと、関連する諸施策との関係について共通理解を醸成し、それぞれが納得して実現に向け取り組むこと（自分ごと化）がしやすくなります。

また、抽象的の高い大きな課題感や目指すべきゴールを、それを構成する個別の課題や関係する取組に分割・細分化していく流れ（左から右への「解決したい問題（あるいは目指す目的）を達成するために必要な取組を明らかにする）が表現されるため、ゴールの達成に向け強化が必要な取組を特定したり、各取組のゴールへの貢献度などの効果測定を行うためにも、有効なツールとなります。

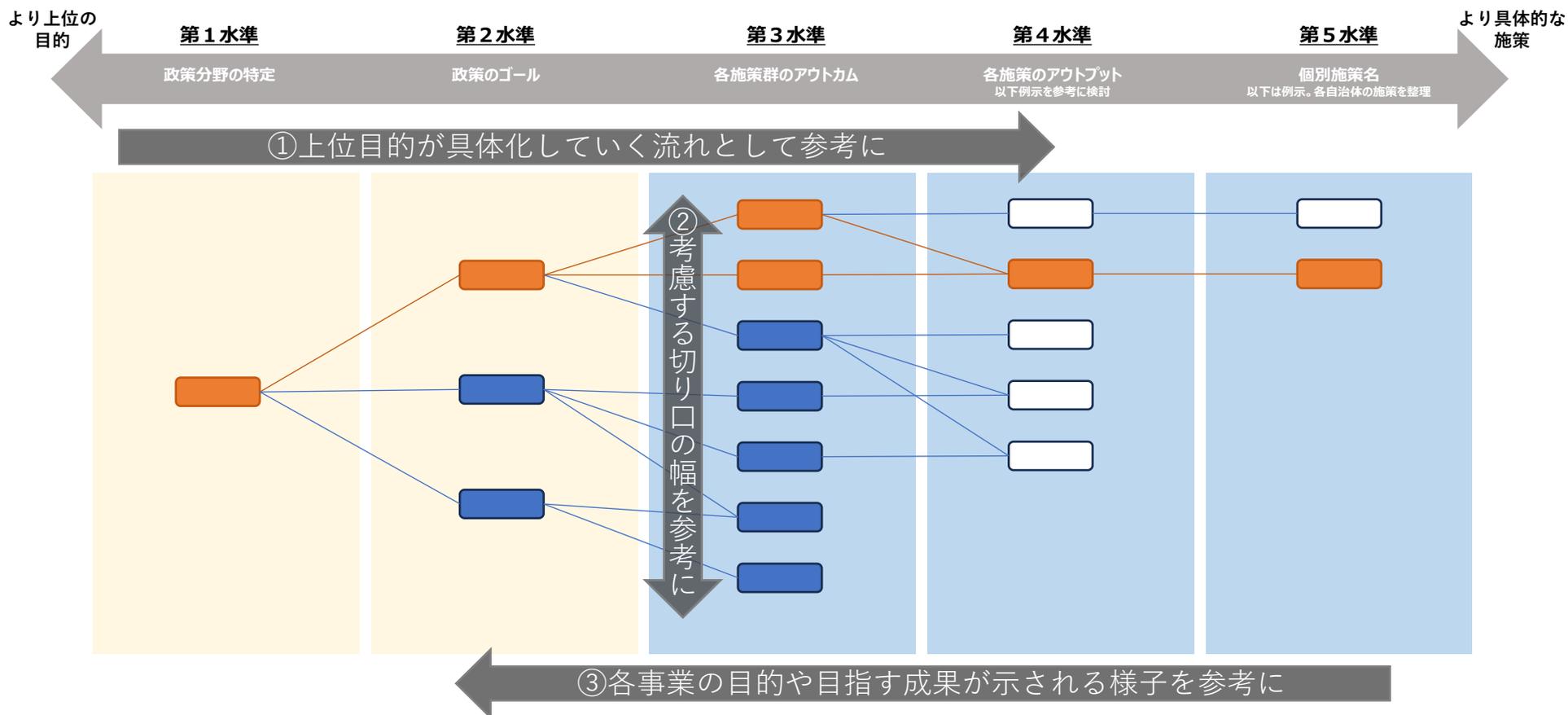
<イメージ>



リファレンスロジックツリーの見方

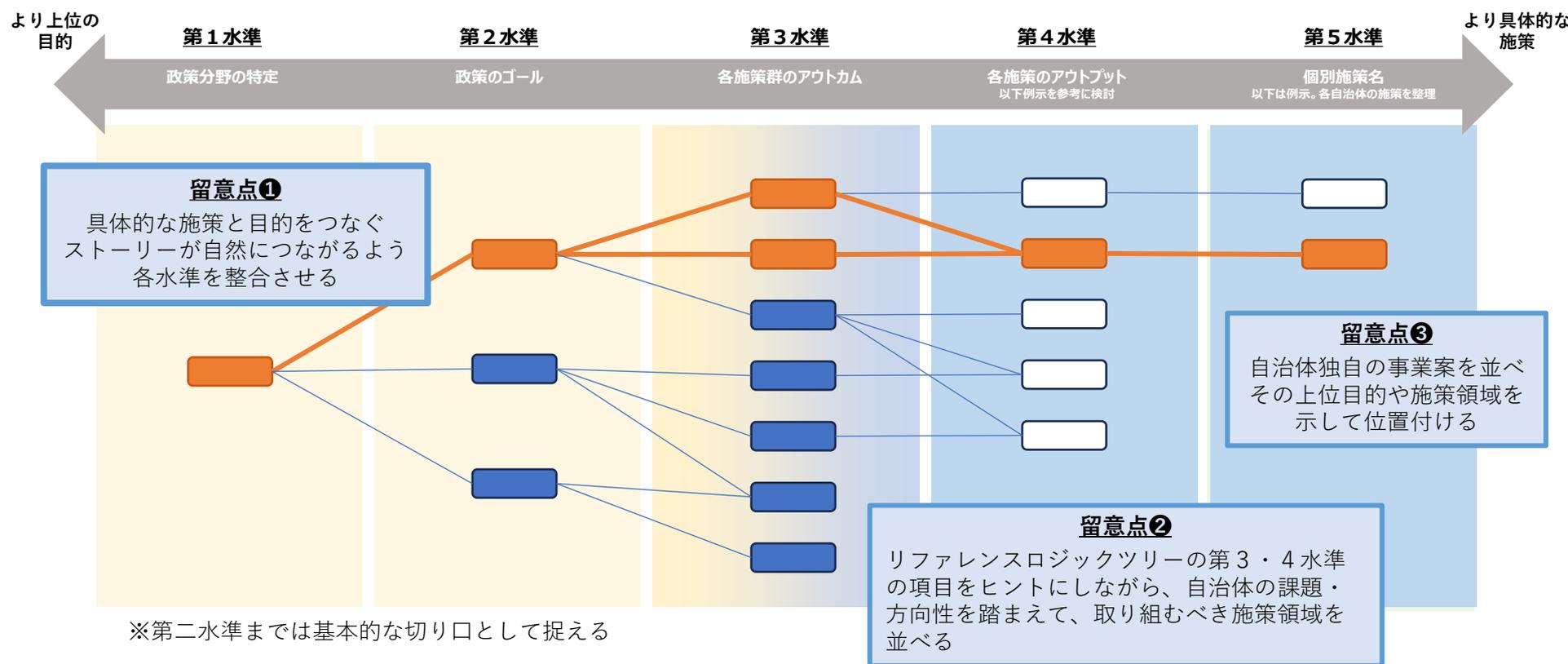
本ツール（リファレンスロジックツリー）は、ロジックツリーの考え方を活用し、各自治体でまちづくり施策の検討を行う際の参考となるように作成したものです。

以下、①-③の観点から参考にしてください。



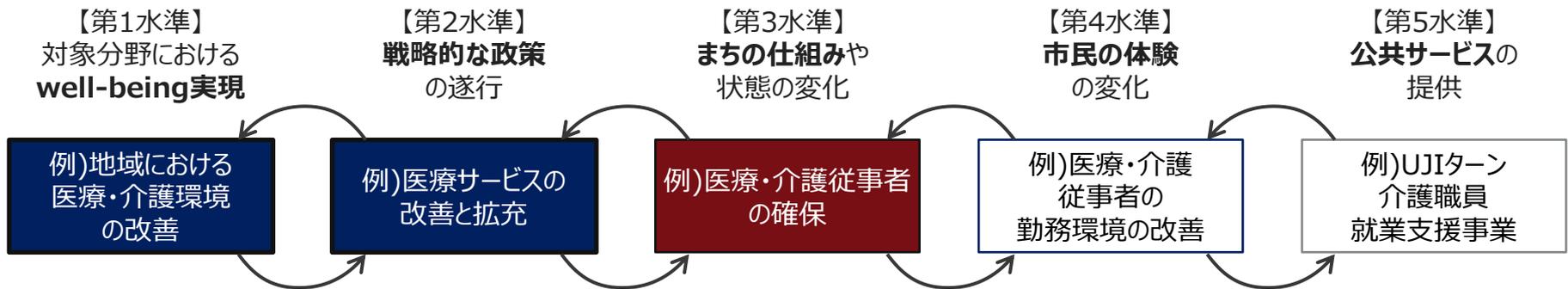
各自治体での検討のヒント

各自治体でロジックツリーを検討する際に、このリファレンスロジックツリーをヒントにしてください。リファレンスロジックツリーの第3水準までを、各上位目的を実現する際の基本的な切り口の幅を示すものと捉えてください。第4水準以降は、以下の留意点①～③を踏まえて自治体独自の施策領域や個別施策を検討してください。また、第4水準の内容に応じて、第3水準を見直してください。



視点

- 水準ごとに異なる**視点**で捉え、施策が市民の体験やまちを向上させる流れをイメージする
 - 第5水準： 具体的な**施策**
 - 第4水準： 目指す**市民体験の変化**（誰にどんな価値・効果があるか）
 - 第3水準： 目指す**まちの変化**（都市がどのように変わるか）
 - 第2水準： 分野ごとの**施策領域**（分野におけるwell-being向上の切り口）
 - 第1水準： 対象とする**政策分野**



**本日および明日以降の
ワークシヨップで
ご検討いただきたいこと**

事前検討) 第5水準施策の特定

- 自治体の総合計画/基本計画, デジ田事業の内容を確認
- 対象分野に属する**主要な施策**(検討中・展開中)を**20件**ほど挙げる
- 第5水準の各施策のポイントを記述
 - 各施策の意義を記述する (解決したい課題, 対象と狙う効果など)



事業概要: 「スマートインクルーシブシティ構築事業」(公表用)

実施主体	能美市	事業費	84,084千円
------	-----	-----	----------

概要

地理的に買い物や医療等の生活基盤が分散により、属性を問わず、移動が困難な人は、地域で住み続けることや、孤立無縁のリスクが高い。この課題を解決するため、医療介護の共通プラットフォームや地域の見守りに活用する福祉見守り安心マップのサービスを構築し、医療・介護・福祉での情報の共有と生活支援の仕組みを構築する。これにより、孤立することなく、車がなくても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできるまちを実現する。

課題・対応方針

- ・地理的に多様で中心街もなく生活機能が分散しており、属性問わず車が不可欠で孤立無縁のリスクが高い。
- ・高齢者の増により住み慣れた地域で住み続けるために、在宅医療介護体制の連携強化が必要。
- ・市民力を活かした地域の見守り強化が必要

解決施策

- ・在宅医療介護の情報共有プラットフォームを構築し、多機関多職種の情報連携と対象者へのサービスとデータを集約する。
- ・福祉見守りあんしんマップをデジタル化し、情報鮮度をあげ、地域見守りや防災、救急との連携を図る。
- ・オンライン医療や買い物支援等を運動させた総合生活支援サービスにより、車がなくても生活できる仕組みをつくる。
- ・地域資源(公民館等)をサービスと人の交流拠点としてアップデートし、人のつながりを促進する。

実現する姿

- ・市内多機関多職種の在宅医療介護の質の向上と機能強化、市民力を活かした連携強化促進に寄与する。
- ・移動が少なく、車がなくても医療や介護サービス、買い物等、安心して暮らし続けることができる仕組みが実現する。

実施内容:

- 医療介護連携共通P: 多職種多機関専門職のケアの連携を促進し共有
- 福祉見守り安心マップ: 民生委員が生活状況を聞き取り、記録、共有
- 自治会(防犯)自治会活動: 救急搬送や自主防災組織と連携共有、活用
- あんしん在宅見守りサービス連携: スーツケース等から健康調査、生活状況把握、見守り
- 総合生活支援サービス: オンライン・高齢等連携、委託購入、配達
- デジタル公民館(サービス、交流拠点): デジタルサービス拠点、コミュニティ交流促進
- あんしん子育てサービス: こども館の子健管理、オンライン医療相談
- あんしん防災サービス: 避難所チェックイン、避難所自治体連携
- 人材育成・前車支援: SteamLabプログラム教育、STEAM教育支援

事前検討) 第5水準施策の特定

- 取り上げた主な施策のそれぞれについて、ポイントを記述
 - 第4水準では「どんな市民の体験に、どういった変化をもたらすのか」という観点で項目を検討します。それを考えるための素材として、各施策で狙っている市民の体験の変化をイメージしてください
 - 表形式のフォーマットに従って記述をお願いします（一つのaについてd-fは複数記入可）

a)事業の名称	b)位置付け (総合計画/デン田交付金事業/その他)	c)概要 (どのような事業か)	d)サービスの主な 受益者	e)サービス実現前の 受益者の課題	f)サービスの実現によって受益者にもたらされる価値
例) UJIターン介護職員 就業支援事業	総合計画	新たに〇〇市に転入した人々のうち、介護技能・経験をもった人々がスムーズに介護職員となれるようマッチング等の就労支援を行う	介護職員ポテンシャルを持った移住者 介護現場	移住に際して、就労・経済的な不安がある。 人手が足りず、十分な介護サービスを提供できない。職員の心身の負担が高すぎる	スムーズに就労でき、生活上の不安を軽減できる。 人手不足を解消しより良い(安全性・満足度など)介護を提供できる

会議・WSとその間の自治体での検討

名称	検討内容
キックオフ会議	[進め方] 全体の進め方を相談、次回までの検討を説明
↓ 自治体での検討①	対象とする施策を列挙、各施策のポイントを記述
ワークショップ1	[5 → 1] 対象施策を起点に全体のロジックツリーを構成
↓ 自治体での検討②	追加候補となる項目や施策を挙げる
ワークショップ2	[1 → 5] 政策領域・施策を拡張し、構造を強化
ワークショップ3	[仕上げ] 全体の確認、文言・構造の調整
↓ 自治体での検討③	各項目について、成果を確認するための指標を特定
ワークショップ4	[指標] 指標の確認、全体振り返り